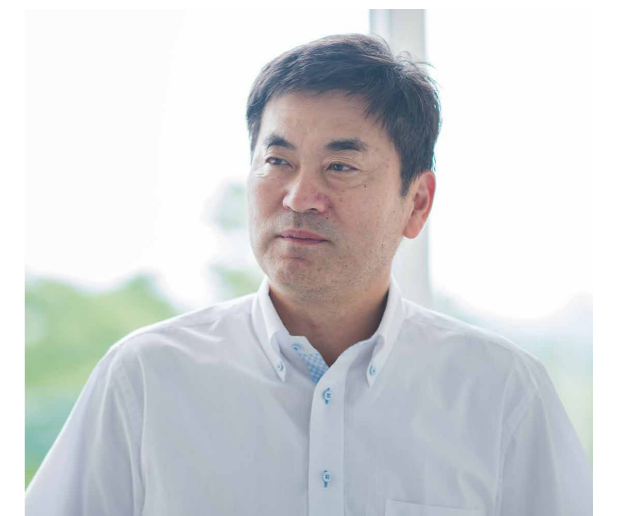


「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

社会性が養え、技能アップ！
たくさんの「良い影響」がありました。

3年前からマイスター制度を利用しています。受講生は主に電気関係の仕事に就きたい生徒や、進学して電子関係を学びたい生徒、技能検定の資格を取得したい生徒などです。マイスター制度を活用したことで、生徒にも良い影響がありました。外部の講師に教わる機会を得ることで刺激を受けるし、「社会性を養う」という点においても有益。卒業後に人間関係で苦労する生徒を何人も見てきたので、実技指導を通してコミュニケーションの機会をもうけられるのは有意義なことだと思います。また、電気・電子分野で欠かせない「はんだ付け」などの高い技能を学べることで技能検定対策にもなります。ほかにも実技指導を経験したことで決められた時間内に仕上げる「集中力」がアップしました。電子部品や技能そのものについて深く興味を持つようになり、質問が増えてその内容も具体的になるなど、より前向きに学ぶようになったことも大きな収穫。生徒だけではなく、今回担当した若い古口駿人先生にとっても、非常に勉強になったそうです。



栃木県立佐野松桜高等学校 情報制御科 科長
教諭 山岸正彦さん

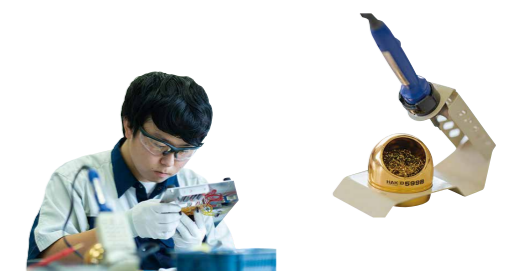
■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：10回 受講者数：情報制御科4名
実施場所：栃木県立佐野松桜高等学校

■ プログラム内容

- 1回目 部品・構成の解説
- 2回目 工具・材料の概要とチェック方法
- 3回目 プリント基板への部品取り付け
- 4回目 プリント基板へのはんだ付け
- 5回目 シャーシの組立て、部品取り付け
- 6回目 完成品の調整と修正方法
- 7回目 時間を測定しながら、組立作業の繰り返し
- 8回目 同 上
- 9回目 不具合時の対応と回路図の見方
- 10回目 最終組立て実習



スマホ・パソコン・クルマetc。
今、もっとも身近で活躍するワザを学ぶ。

ものづくりや各種検定試験への挑戦など、専門学科ならではのキャリア教育を実践する栃木県立佐野松桜高等学校では、3年前からマイスター制度を利用。経験豊富なマイスターの協力を得て、より専門的な知識・技能の習得及び生徒の成長と社会的自立を促す教育活動を展開しています。

ものづくりマイスター派遣先学校

■ 栃木県立佐野松桜高等学校

| | | | |
|-----|-------------------------|------|-------|
| 所在地 | 栃木県佐野市出流原町643-5 | 創立年 | 昭和49年 |
| 学科 | 情報制御科、商業科、 家政科、社会福祉科 | 学校長 | 飯塚 晃代 |
| | | 在校生数 | 680名 |



💡 教育プログラムの解説

スマートフォンや電子化が進むクルマなど私たちの身の回りには様々な工業製品があふれています。それら「頭脳」を製作する「電子機器組立て」の技能は、現代社会になくはないもののひとつ。電子機器は、抵抗器、コンデンサ、集積回路、マイクロプロセッサなどの電子回路を中心に構成されており、実技指導では基本的な部品・構成の解説から、組み立てに必要な技能をマイスターから学ぶことができます。

座談会
INTERVIEW

ものづくりマスター × 受講生
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真_右から2番目)

鈴木 春彦さん

昭和28年生まれ
平成7年度 特級技能士「電子機器組立て」取得
平成27年度 厚生労働省 ものづくりマスター
「電子機器組立て」認定

電子機器組立て技能士「特級」の資格を持つベテランマスター。約40年間電機メーカーに勤め、技能者として製造現場に携わる傍ら従業員に指導を行う。退社後、「ものづくりマスター制度」に登録し、後進の育成に努める。

泣きそうなほど、むずかしい。けど気づけたこともある。

鈴木さん 佐野松桜高等学校では3年前からマスターとして生徒たちに教えています。ここの学校の皆さんは熱心で素晴らしい生徒さんばかり。どうか、今日まで実技指導を体験してみた感想は？

飯塚さん 正直、もっと簡単だと思ってました。もう泣きそう。泣き叫びたいぐらいむずかしかった……！

河内さん 僕も最初は練習すれば大丈夫かな？と思っていたんですけど、やっていくうちにむずかしくなってきた……心が折れそうになりました。



受講した生徒 (写真_左)

飯塚 光希さん | 情報制御科3年生

将来の夢は自衛官。ジュニアマスター顕彰ゴールドを取るために進進！

受講した生徒 (写真_左から3番目)

河内 柊人さん | 情報制御科3年生

仮面ライダーが大好き。将来の夢は「仮面ライダーベルトをつくること」。

受講した生徒 (写真_左から2番目)

篠田 光基さん | 情報制御科2年生

今後の仕事に役立てるために、高校時代に資格をたくさん取りたい。

受講した生徒 (写真_右)

津久井 望史さん | 情報制御科2年生

映画鑑賞が趣味。専門分野を究めて、将来はパソコン関連の仕事につきたい。



マスターのアドバイスは「ためになること」ばかり！

飯塚さん マスターに教わってみて感じたことは、やっぱり「見る目が違うな！」ということ。みんなもそうだよな？

篠田さん うん、たしかに。細かいところまでチェックしてくれたから、次にやることに対して、何に気をつければよいのかという課題がわかる。

河内さん 自分が気づいてなかったことをズバリ指摘してくれるのでとても勉強になりました。

津久井さん そうそう。自分では「良くできた」と思ったところが、意外に指摘されたり。苦手なところを指導していただいたり、プロならではの小技も知れて面白かったです。

飯塚さん マスターが「こうやってみたら？」と教えてくれることは、本当にためになるし、悩んでいた問題がすんなり解決

することもあるからすごいと思います！

鈴木さん ありがとう。だけど私のやり方にこだわらず、自分の一番やりやすい方法を見つけてください。人によってやり方が違うのは当然だから、考えながら取り組むのが一番。みんなが自分なりに工夫することで、「こういう方法もあるんだ！」と、私にとっても勉強になります。



ものづくりを極めたマスターの視点がぼくらの未来に力を与える。

精神的に成長できて、将来の夢が近づいた。

飯塚さん マスターに教えてもらったことで、みんなの技能が向上してきました。いまじゃ「ジュニアマスターの資格を取る」ということがモチベーション。精神的な部分で成長できた気がします。

鈴木さん こういったことをきっかけに、積極的にものづくりに興味を持っていたきたい。進路について、みんなはどういう風に考えていますか？

篠田さん 将来のことはまだ具体的に決めていませんが、資格をたくさん取りたいと思っているので、こういうきっかけがあって良かったです。

河内さん 僕は、ずっと好きだった玩具をつくる会社に入りたくて。そのために

まず進学して電子のことを学びたいな。

飯塚さん 自分は自衛官になりたい。戦闘機や航空機を整備する人間になりたい。ここで学んだ電子機器の技能があれば、将来活躍できるかもしれないですね。

鈴木さん 苦勞して完成させたものが、動作したときに感じる喜びこそ「ものづくりの楽しさ」。それを学んで、卒業したあとぜひ社会で役立ててください。

